

南の躍動

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実

大島教育事務所 令和2年10月30日



【与論町】基家系図（町指定文化財）



『奄美のよさを生かした活力ある教育の充実』を

大島教育事務所指導課長 富田 純一

早いもので、今年度も折り返しを迎えました。アカショウビンの子育てを終え、東南アジア方面へと旅立ち、代わりにサシバが子育てのために北国から飛来する季節となりました。各学校では2学期の始まりと同時に多くの制限の中で授業や運動会・体育大会を始めとする各種行事の実施等、活力ある教育活動が展開されていることに感謝申し上げます。

また、年度当初からこれまでに多くの学校を訪問させていただきました。「新しい生活様式」の中で先生方が熱心に児童生徒の指導に取り組まれている様子や、それに応える児童生徒の生き生きとした様子を観ることができたことにも重ねて感謝申し上げます。

ところで、8月某日はペルセウス座流星群の流れ星を観るために奄美少年自然の家近くの公園に行ってみました。たいへん多くの家族連れが集まっていて、長く尾を引く流れ星が現れるたびに、暗闇の中から子供たちの「うわあっ!」「すごっ!」という歓声が沸き上がり、その場にいる人たちとの一体感を感じながら夏の夜の天体ショーを堪能しました。きっとそれぞれの家庭で保護者がこの素晴らしい自然現象を子供たちに体験させたいという思いで連れてきたのだろうと推察することでした。

児童生徒の「生きる力」を育むためには、学習と共に豊かな体験活動が不可欠です。各学校では、「島唄・島口」への取組や関連する行事の設定、伝統ある地域行事等の学校行事への関連付けや伝承活動など、奄美ならではのよさをふんだんに取り入れた教育課程の策定等、活力ある教育の充実が推進されています。このことにより、豊かな感性をもった児童生徒が育成されていることが学校訪問や新聞報道等を通して伺えます。（作文や詩歌、川柳、絵画、新聞への寄稿文、学校行事の様子等）



【瀬戸内町立阿木名小中学校】
運動会における八月踊りの様子

児童生徒は、これからの社会を支えていく貴重な人材です。その多くは22世紀をも支えていくのです。私たちは、このかけがえのない児童生徒に、奄美のよさを生かしながら、確かな「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の力を身に付けさせ、「生きる力」を育てていかなければなりません。

今年度は既に各学校でも取り組んでいただいているように、「授業改善の視点による取組（特に「確かめ見届け」の徹底と「書く活動」の充実）」と「演習問題（良問）への取組」の両輪で、確実に児童生徒の学力の向上に努め、奄美のきらめく児童生徒を育てていきましょう。

結びに、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を祈念いたします。

GIGAスクール構想の実現に向けた取組状況

GIGAスクール構想の実現に向けて大島地区の各学校では、一人一台端末の活用や遠隔授業等の様々な取組が始まっています。新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業中に、学校と家庭で遠隔授業を実施したり、ケーブルテレビを活用した学習動画を放送したりするなど各市町村や学校のICT環境等の実態に応じて工夫した取組が見られており、大変心強いです。



【徳之島町立母間小学校の授業の風景】

また、徳之島町の小学校では、遠隔合同授業において一人一台端末を活用した先進的な取組が実施されています。

児童生徒の学びの充実に向けたGIGAスクール構想の実現に向けて、今できる準備を進めていきましょう。

奄美の文化財等

基家系図

城集落の基家に伝わる家系図は、初代花城真三郎から始まる一族の系図です。花城真三郎は、尚真王代に沖縄から渡ってきたとされる人物で、この人物から始まる一族は、与論島の中でも有力者の一族でした。

また、この家系図は、火事で一度焼失したものを文政三（1820）年に書き写したとの記載があることから、今からちょうど200年前に作成された史料であることが分かっています。

この系図は、本町の歴史を語る上で重要なものであることから、平成12年4月1日に与論町の指定文化財となっています。

学びの組織活性化に向けた取組（知名町立知名中学校）



9月17日（木）に、知名町立知名中学校の研究テーマである「主体的に学び、思考し、表現できる生徒の育成」を目指し、同校の岩尾教諭に数学科の授業を提供していただき、研究授業ならびに授業研究を行いました。

研究授業の視点として、同校の3つの仮説である「生徒に興味・関心をもたせる導入の工夫」、「ねらいをもった学習形態の工夫」、「学習のまとめを意識した授業構成」の下、生徒一人一人が生き生きと学ぶ授業が展開されていました。

研究協議においても、参加した小学校や高等学校の先生方から、生徒の姿やつぶやきに基づいた意見が交流され、生徒主体の授業検証となりました。

今後も学力向上に向けた計画的かつ組織的な授業改善を推進し、知名中学校の生徒一人一人を伸ばしていただきたいと思います。



コアティーチャーネットワークプロジェクト

「『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラムに基づくコアティーチャーネットワークプロジェクト」を7月29日（水）・30日（木）、8月20日（木）の3日間、奄美会館で行いました。このプロジェクトは、平成27年度からはじまり、今年で6年目の事業です。

本年度も小、中学校の教員それぞれ15人ずつ計30人に委嘱し、国語、算数・数学、外国語活動・外国語の3部会に分かれ、「授業充実の3ポイント」を踏まえた上で、「確かめ・見届け」と「書く活動」を重点としたモデル授業づくりに取り組みました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオープンサポート教科フォーラムを実施できませんでしたが、名瀬小学校において、モデル授業の検証を行いました。なお、研究の成果をリーフレットと授業イメージ動画集として2学期後半に各市町村教育委員会を通じて配布する予定です。

校内研修等で効果的に活用してください。



大島地区ジュニア・リーダー研修会



大島地区 ジュニア・リーダー研修会・交流大会

8月18日（火）～20日（木）に、ジュニア・リーダーとしての現状や課題を把握し、組織の運営等に必要な知識・技能に関する研修を行いながら、自ら主体的に取り組むジュニア・リーダーを育成するため、標記研修会及び交流大会を開催しました。

活動内容は、グループ討議や海浜活動（いかだ作り）、創作活動（泥染め体験）、講義・演習と多岐にわたり、様々な体験を積む姿が見られました。参加者からは、「ジュニア・リーダーの目的を意識して、活動を考えるときに生かせると思った。」「自分も地域課題解決のために活動しているので、とてもよい話を聞くことができた。」等の感想が聞かれました。

